

都市鉄道における利用者ニーズの高度化等に対応した
施設整備促進に関する検討会(第3回)議事概要

バリアフリー化の現状及び課題等に関する鉄道事業者へのヒアリング

■今後迅速にバリアフリー化を進める上での課題・改善すべき事項

- バリアフリー化を進める上で、現行のバリアフリー化の補助制度で必ずしも三位一体の原則が守られていないこと、維持管理費及び更新費が補助対象外であり、今後鉄道事業者の費用負担が増加すること等が課題。
 - ホームドア等については前倒しで整備をする予定であるが、これに伴い維持更新費も前倒しで負担となるため、これらについても三位一体等の何かしらの補助の措置が必要ではないか。
 - 地方公共団体によってはバリアフリー補助の要綱等で補助額の上限等を定めている場合があり、鉄道事業者の負担割合が3割を超える事例は少なくない。
 - ホームドアの整備が進んでいない理由の一つとして、施工能力の問題がある。一方、段差解消については、自治体との協議が整わないことや補助が3分の1の負担に達しない状況が出ていることが課題となっている。
 - これまでのバリアフリー化は、既存施設等の制約の少ない場所に施設を整備してきたが、段差解消ルートが2ルート目となれば、より制約の多い場所に整備することとなり、更に時間とコストを要することが課題。
 - 将来構想のある駅については、自治体との協議が長期化するが、バリアフリー化も将来構想に対応せざるを得ない。
 - 今後、設備量の増大に伴い維持更新費用が増大することから、これらの費用負担について、持続的なバリアフリー化の観点からも三位一体の考えのもと整理が必要ではないか。
- 新たな利用者負担制度の有効性と課題について
- 社会的要請があり、かつ受益者が限られるバリアフリー設備については、現行の三位一体の制度で整備が進められるべきと考える。
 - 利用者負担を求める場合、利用者にその負担の納得感を得ることが必要。また、運賃改定等をする際には、システム改修費が多額であることが課題。

- 事業者は災害対策や輸送サービス向上施策などを運賃収入から負担しており、優先順位をつけて整備をしている。設備投資の決定は民間企業として経営の自主性の根幹をなすものとして尊重されるべきものとする。そのため、施設整備促進の新たな措置をとるのであれば、これらの自主性に配慮した制度設計とするべきではないか。

■利用者負担における受益と負担の考え方について

- バリアフリー設備の場合、受益を受ける場所は、ある駅のエレベーター等の施設であり、場所が特定される。ある駅のバリアフリー設備の負担を他の駅の利用者に求めるのは、受益と負担が一致しないのではないか。
- 施設を使わなくても潜在的な受益はあるという考え方はあるだろうが、一般の利用者がそのように捉えてくれるだろうか。仮に負担を求める際、どのような認識を持たれるかが課題となる。
- ホームドアについては転落防止対策として進めているが、ほとんどリスクがない方まで受益が及ぶとは言い切れないのではないか。
- 高齢者や観光客増加等により限定的な受益者に広がりが生じてきているため、利用者に受益が及ばないと言い切れるのか。これまでは受益者が限定的だったかもしれないが、今後は受益と負担のズレが縮小し、重なりが大きくなっていくのではないか。
- 使わなくても受益があるという考え方があるのではないか。例えば、健常者が日常的に利用しないバリアフリー設備にも、体調が悪いとき等には利用できるような受益(いわゆる「オプションバリュー」)があるのではないか。
- 受益と負担の関係は、もう少し柔軟に考えても良いのではないか。ある瞬間の受益と負担の関係のみならず、若い人はいずれ高齢者になることや、重い荷物を持つ必要が生じた際にも外出したくなることなども含め、時間軸を広げて検討してもよいのではないか。

■その他の意見

- バリアフリー設備は社会福祉的な施策という意味では、公の関与が鉄道事業者の負担とともにあるべき。そのため、今の三位一体の制度は適切ではないか。
- バリアフリー施設の整備は事業者が意識を持って進め、国と自治体がそれぞれ支援することが三位一体の基本的な考え方であったのと思うが、三位一体とは必ずしも3分の1ずつ負担するという意味ではないのではないか。
- 利用者負担を求める場合、バスなどに対する鉄道の競争力低下を懸念。

- 駅をバリアフリー化するだけでなく、家を出てから到着するまでバリアフリー化されていることが重要。自治体と連携できることが事業者の積極性に繋がるのではないかと。

- これまでバリアフリー化を社会福祉政策として三位一体で行ってきたことは、一定程度効果があったと思うが、歪みが生じてきていることも理解。便益がどこまで広がり、負担をどこまで求められるか、という点を整理することが重要。